

Newsletter of Catholic Omiya Church

おおみや教会通信



主のご降誕、おめでとうございます

「今年も一年が過ぎるのが早いですね」という決まり文句を言い合うことにも飽き飽きしますね。とはいえ変化はあります。コロナ禍の数年前にはクリスマスのミサさえ与ることができない状況でした。しかし私たち人間の都合とは関係なく、クリスマスそのものは毎年必ずやってきます。そのことを考えると少し不思議な気分になります。

ある司祭*は「クリスマスとは神様が『あなたと一緒にいさせてほしい』というプロポーズだと言いました。今日が良くても悪くても、私の行いが良くても悪くても、確実にクリスマスはやって来る。毎年神様は私たち一人ひとりに『あなたと一緒にいさせてほしい』と懇願してくる。そんな無条件のプロポーズを私たちは喜びと驚きをもって受け取ってほしい、そんなにも私を愛してくださる方がいるという事実に安心してほしい、そしてできたらその安心を少しでも誰かに分けてほしい、と。

いつもとはちょっと違う捉え方でクリスマスをお祝いしましょう。

* 大西勇史神父様（島根県浜田/益田教会）

https://www.instagram.com/yu_ji.onishi?igsh=MXZjZWUwdG8zb25keg==

Instagram



+++++

< 堅信式 >

11月16日（日）山野内司教様の司式で3人の若者の堅信式が行われました。

- + ミカエル 宮井さん
- + クリスチアーナ 寺田さん
- + フェルナンデスさん

堅信 おめでとうございます。



「堅信の秘跡を受けて」

堅信式のための勉強会を通して、カトリックの教えをより深く学ぶことができ、信仰との向き合い方を改めて考える機会にもなりました。子どもの頃からお世話になっている大宮教会で、堅信式を受けられたことを嬉しく思います。式にあたってご協力いただいた皆様、ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

寺田

内容【堅信式】【堅信の秘跡を受けて】【聖年の巡礼】巡礼の旅【2026年度典礼歴】

【信徒委員会】【財務部】明細書【成人養成部】四旬節講話会

【その他】毎日のミサ購読【今後の予定】【銅版画】【山口神父様クリスマスメッセージ】【ローマ巡礼の旅③】【サモア〜主によばれて（45）】

+++++

< 聖年の巡礼 >

11月24日(月・祝)大宮教会と上尾教会合同の聖年の巡礼が行われました。栃木県宇都宮市の松が峰教会(山口神父様の前任地)と群馬県の太田教会(前主任司祭の谷神父様の担当教会)へ行ってきました。和気藹々と楽しい時間を過ごし、素晴らしい建築を堪能し、谷神父様との再会を喜び、ミサにも預かり、聖年の免償を受けることができました。山口神父様、斉藤委員長、ご協力くださった皆様、ありがとうございました。

巡礼の旅

聖年の巡礼で松が峰教会と太田教会へ行って参りました。上尾教会と大宮教会から約80名、バス2台での巡礼の旅です。11月24日、申し分なく晴れて暖かな小春日和に恵まれた日でした。

松が峰教会は地元の大谷石を使い、ロマネスク様式で1932年に建てられ、その美しさも重厚さも圧倒的で、とても印象に残る教会です。

この教会でかつて主任司祭を務められた山口神父様から詳しくお話を伺いました。

パイプオルガンでアヴェ・マリアを同教会のオルガニストの方が演奏してくださり、心に響きました。お聖堂では聖年の祈りを皆で唱えました。



太田教会では、山口神父様がミサをあげて下さいました。巡礼指定教会でミサに与れる幸せに感謝します。

以前大宮教会におられたディン神父様が私どもを迎え、お茶や太田教会巡礼の記念キーホルダーまで全員にご用意くださいました。

この度は2025年の巡礼の旅を企画してくださり、ありがとうございました。

大宮区 中川

+++++

2026年度 典礼暦 復活節まで

待降節

11月30日(日)待降節第1主日 12月3日(水)日本宣教の保護者聖ワシロ・ザビエル司祭(祝日・白)

12月8日(月)無原罪の聖母マリア(祭日・白)

降誕節

12月25日(木)主の降誕(祭日) 12月28日(日)聖家族(祝日)

1月1日(木)神の母聖マリア(降誕の八日目)(祭日) 1月4日(日)主の公現(祭日) 1月11日(日)主の洗礼(祝日)

年間

1月12日(月)年間第1月曜日 1月18日(日)年間第2主日 2月2日(月)主の奉献(祝日・白)

2月5日(木)日本26聖人殉教者(聖パ・加三木と同志殉教者)(祝日・赤)

2月15日(日)年間第6主日(四旬節直前の年間主日)

四旬節

2月18日(水)灰の水曜日(大斎・小斎) 2月22日(日)四旬節第1主日

3月17日(火)日本の信徒殉教者の聖母(祝日・白) 3月19日(木)聖ヰ(祭日・白)

3月25日(水)神のお告げ(祭日・白) 3月29日(日)受難の主日(枝の主日)(赤)

復活節

4月5日(日)復活の主日(祭日) 5月17日(日)主の昇天(祭日) 5月24日(日)聖霊降臨の主日(祭日・赤)

+++++

<信徒委員会・各部からのお知らせ>

+++++

<財務部より>

教会維持費を納入する際に金額を記載し一緒に封筒に入れている明細書ですが、これまではその年が終わったら各自処分するようお願いしてきました。今後はその年の分の納入が完了したら、財務部の方で保管することにしました。5年間保存した後破棄します。ご了承ください。

<成人養成部より>

来年2月22日（日）ミサの後に四旬節の講話会を行います。

講師は上智大学神学部教授の片山はるひさんです。

講話の内容のリクエストを受け付けています。

河本・槻田まで

<毎日のミサの年間購読について>

「毎日のミサ」の年間購読を個人でされている方へご提案です。大宮教会で「共同購入」をされませんか。共同購入されることで、カトリック出版部より、大宮教会への特典として、神父様の購読分、教会使用分の補填が増えます。どうぞご検討ください。尚、大宮教会の共同購入の期間は、新年度からとなります。申し込みは、来年2月よりお受けします。ご不明な点はご遠慮なくお問い合わせください。

「毎日のミサ」購読係

須田

+++++

<今後の予定>

✿クリスマスの予定

12月24日（水）降誕祭夜半ミサ 19:00～

12月25日（木）降誕祭日中ミサ 10:00～

12月28日（日）聖年閉幕ミサ（浦和教会）15:00～

1月 1日（木）元旦ミサ 11:00～

※1月4日よりキリアーレ（賛歌）をCに変更します。

+++++

<北村さんの銅版画をお分けします>

大宮教会の聖堂の十字架の道行を製作者 北村さんが、終活の一環として、長い間制作されてきた銅版画を、欲しい方にお分けすることになりました。

1 階ロビーに展示しておりますので、ご希望の方は申込書に名前と希望する作品の番号をお書きになり、箱にお入れください。応募者多数の場合、抽選となります。尚、ご本人は無償を希望されていますが、いくばくかの献金をお願いします。締め切りは1月25日です。

+++++

+++++

聖母子像

主任司祭 フランシスコ 山口 一彦

2019年11月にフランシスコ教皇様が来日され、その直後から新型コロナの世界的なパンデミックが始まってしまいました。教会では主日も平日も公開ミサが立てられなくなり、私たち司祭は毎日独りでミサを捧げるようになりました。私も、当時担当していた松が峰教会の小聖堂で、孤独なミサを繰り返していました。独りですから、説教はしません。代わりに、福音朗読の直後は会衆席の一番前に座って5分くらい黙想をします。その時、目の前の壁に掲示されていたのが、右の聖母子像です。毎日のことですから、お二人の姿は私にとって、どんどん馴染み深い存在となっていました。



伝説では15歳でイエス様を産んだと言われるマリア様。その初々しさや戸惑い、明るさや優しさ、そういったものが、若々しい眼差しから輝き出ているようです。そして何より微笑ましいのは、幼いイエス様と聖母マリア様が、お互いの頬を寄せ合って、スリスリしているところですね。このお二人の姿をしばらく眺めていると、刺々しく荒（すさ）んだ私の心も、癒されていくように思えました。

イエス様とマリア様に限らず、多かれ少なかれ、私たちはこうして幼少の頃から、親子のスキンシップの中で信頼の絆を育んできました。ところが、自分の気持ちを説明することができない幼児がこの瞬間、本当のところは何を感じているのか、ということが科学的客観的に分析されることは、今まで殆どありませんでした。そんな中で数年前、東邦大学医学部の船戸弘正教授たちのグループが、親子のハグについて興味深い研究結果を発表しました。以下、簡単にその概要をご紹介します。

0歳児とその両親100組以上を募って、大学の実験室に来てもらいます。まず、お母さんが赤ちゃんを20秒間抱っこします。すると多くの赤ちゃんの場合、その心拍数が明らかに下がります。赤ちゃんの副交感神経が活発に働いて安心感を高め、リラックスした状態になったと考えられます。さらにこの実験を繰り返すと、もう少し詳しい分析結果が出ました。実は、生後4ヶ月未満の赤ちゃんには、この心拍数の変化がほとんど見られなかったんですね。

さらに育児経験のある初対面の女性が抱っこした場合にも、赤ちゃんの心拍数は変化しませんでした。その一方で、週に2～3回程度しか育児に関わっていないお父さんの場合には、お母さんの時と同様に、赤ちゃんの心拍数はリラックス状態を示します。このことは、親の性別による差ではなく、乳児の発達段階と親子の関係性の成熟が、密接に関連し合っていることを示唆しています。さらに興味深いことは、赤ちゃんを抱っこした時、お母さんやお父さんのほうも、その心拍数が下がって、リラックス状態を示していた点です。これは、実際に子育てを経験された方なら、実感として納得できることかもしれません。

マリア様は、年若い両親、父ヨアキムと母アンナの間にも生まれました。二人は娘の誕生を、どんなに喜んだことでしょう。でもマリア様は、幼くして……ある伝説ではわずか3歳の時に……エルサレム神殿で奉仕する乙女として預けられました。ですから、親子の肉体的なスキンシップの期間は、現代の私たちよりも、はるかに短いものだったようです。でもその数年間に、マリア様もきっと、繰り返し両親によって抱っこされたことでしょう。そのたびに、言うに言われぬ安心感に包まれたことでしょう。両親の温かい腕の中で、人間として最も大切な「何か」を受け止め、それを土台として素敵な少女に育っていくことになります。

15歳で神の子を抱きしめるマリア様。今度は我が子から、安心感をもらっています。神そのものである方から伝わってくる最も大切な「何か」を受け止めています。それが聖母子像の姿です。そして、繰り返し皆さんに申し上げている通り、聖母マリア様のお姿は、イエス様を信じる私たちの象徴です。私たちのあるべき姿です。私たちもそれぞれ、母親と父親から抱きしめられ、人間として成長する上で欠かすことの出来ない「何か」を受け止めました。そして今、今度は肉体的にではなく霊的に、イエス様を心の中に抱いて、神ご自身の霊から波動のように伝わってくる「何か」を受け止め続けています。その安心感から力をもらって、厳しい現実を生きているのです。

この「何か」とは、何でしょうか。神秘的すぎて、とても人間の不完全な言葉で言い表すことなど出来ませんが、昔、どこかの誰かが名付けた言葉、それが「愛」なんだと思います。皆さん、心の中で、イエス様をハグしていますか。

+++++

ローマ巡礼の旅③

ローマ滞在も3週間目に入り、ローマ街中の大小さまざまな教会、大聖堂、バジリカを数多く訪問することができたので、新たな試みとして列車で2時間半弱のところにあるアッシジまで行ってみることにした。事前に天気予報を見て日程を決め、スマホで朝早い乗り換えなしの直通列車のチケットを予約し、当日は例によって始発のバスでローマテルミニ駅に移動して、何とか目指す列車に乗り込むことができた。テルミニ駅内のカフェ等もノウハウがないので、わざわざ長蛇の列に並んで高い買い物をしたり、親切そうな人にスマホチケットのチェックインの確認を手伝ってもらったら€5請求されたり(€1コインを手渡した)で、ザワザワと落ち着かない時間が流れていった。



サンタ・マリア・マッジョーレ聖堂

遅ればせながらも2～3日前からYouTubeでアッシジ訪問についての基礎知識を学び始めはしたが、アッシジ下車後、バスへの乗り換えとチケットの購入、バスを下車する停留所の確認等々で神経が徐々にすり減っていく。やっとサン・フランチェスコ聖堂にたどり着いた時、ミサはすでに始まってしまっていたが、皆さんがするように、途中から後ろのほうの席にちょこんと腰を下ろしてミサに与ることにした。なんとなく後ろめたい気持ちで聖体拝領をさせて頂き、ミサ後に聖堂内を見学してから、アッシジの街中を散策することにした。サンタ・キアラ(聖クララ)聖堂、サンタ・マリア・マッジョーレ教会、サン・ダミアーノ教会等々を、観光モードでガツガツと歩き回って見学し、3時過ぎにアッシジ駅行きのバスに乗り込んだ。予定通りの列車でテルミニ駅に戻れたが、バスとトラムのストライキ等もあって、アパートにたどり着いたのは夜の8時を回っていた。とても長い一日となったが、アッシジはとてもきれいな街で天気も良かったのでそれなりの満足感(ミッション・コンプリート)で満たされていた。

ところが後日、ローマでグロリエッタさんの巡礼グループの皆さんの分かち合いの場に混ぜていただいた際、皆さんとの会話を通して、自分はアッシジにおいて大事なことを幾つも見落としていたことに気づかされてしまった。聖クララ(サンタ・キアラ)が誰で、サン・ダミアーノ教会とはどのような教会なのか、サンタ・マリア・マッジョーレ教会に安置されてあった少年の遺体は誰なのか……。勉強不足・知識不足とは言え、本当に恥ずかしく、申し訳ない思いでいっぱいになった。自分一人で段取りを

し、自力でアッシジまで列車で行くということが目標となり、何をしに、なぜ行くのか、という巡礼の旅として肝心なことがまるっきり頭から抜け落ちてしまっていた。でも、まあ、4大バジリカの訪問も、第一回目は同じような状態だったので、すぐに気持ちを切り替えてもう一度行くことにした。

日程的な余裕はあったので、再度天気予報を見て日を選び、同じ列車を同じようにネットで予約し、列車の中でくつろげる体制をしっかりと確保して、2度目のアッシジへ向かった。聖フランチェスコ聖堂のミサには時間的余裕をもって到着でき、心を落ち着けて祈りを捧げてからミサに与ることができた。ミサ後、聖フランチェスコの納骨堂の前で、サンタ・キアラ聖堂の聖クララのご遺体の前で、そしてサンタ・マリア・マッジョーレ教会の聖カルロ・アクトイスのご遺体の前で、心を鎮めて祈りを捧げ、前回は開館予定時刻になっても扉があかず教会内部には入れなかったサン・ダミアーノ教会の聖堂にも入ることができた。



聖フランチェスコ聖堂

サン・ダミアーノ教会の聖堂見学中、後方の席に坐って一休みしながらボ～としていたら、聖堂前方の祭壇

横にある出入り口からぞろぞろと人が入ってきて、ふと気づくとドイツ人の巡礼グループのミサがまさに始まろうとしていた。アッと思った時には聖堂を出るタイミングを完全に外してしまっていて、一緒にミサに与らせていただくしかない状況になってしまった。ドイツの巡礼の方々が捧げるミサは元氣あふれるもので素晴らしい。そんな中、聖体拝領の列に並ばない一人の珍客(聖体拝領は朝ミサで済ませてしまっていた)に向けられた暖かな平和の挨拶とグッと差し出された握手の力強さは、恥ずかしさとともに今も鮮明に心と手のひらに残っている。

帰りの列車の中ではポケットのロザリオを繰りながら、父なる神様、イエス様、マリア様との深い交わりの時を過ごすことができた。前回と同じように8時過ぎにアパートに戻りベッドに入った時、自分でもこんな祈りに満たされた一日を過ごすことができるんだという小さな驚きとともに、主の平安に満たされて深い眠りについた。

白岡 河本

✦ サモア～主に呼ばれて (45) ✦

サモアはもともと観光地が少ないのですが、数少ない観光地で「地球の歩き方」にも掲載されたソロソロビーチというのがあります。真っ黒な砂浜の海岸です。前回の記事にソロソロビーチの友人の家に泊めてもらったことを書いた際に、写真を入れるのをすっかり忘れていました。



さて、3月も終わりに近づいてきて、佳美がサモアに来る日にちが決まりました。3月末まで働いて4月2日に出発すると連絡がきたので、校長先生に伝えました。

前の年に結婚することを伝えたときは、あまり快く思っていない様子でしたが、来ることが決まったら、喜んでくれて、いろいろと準備してくれました。まず、住む部屋です。ボランティアハウスは単身用の部屋しかないので、図書室の隣の書庫のような部屋を割り当ててくれました。教室のある棟とは別の棟に図書室はあります。最高学年の12年生の教室と図書室が同じ建物だったと思います。12年生は日本の高校2年生にあたりますが、高校卒業資格の試験を11年生終了時に受けるので、ほとんどの生徒は11年生で終了してしまいます。ですので、12年生は20人程度しか在籍していません。

他の学年と違って明確に学習意欲がない生徒しか残らないので、勉強も一生懸命取り組んでいます。高校の卒業試験は、日本にはない制度です。高校を卒業する学力があると国がお墨付きを与える試験です。日本でいえば大学入学資格検定のようなものをイメージするかもしれませんが、難しいです。しっかりと高校の内容を理解していないと合格できないようでした。その試験の合格率を上げるようにいつも校長先生からは言われていました。

その部屋にカーテンをつけてくれました。カーテンはつけてくれましたが、サモアのガラス窓は、ルーバータイプなので話し声は外に簡単に聞こえてしまいます。また、日中はカーテンを開けるので、プライバシーなんてありません。

家具は、ベッドと冷蔵庫とテーブルのみ、冷蔵庫はボランティアハウス用に新しいのを買ったので、以前ボランティアハウスで使っていたお古を使うことになりました。これは扉のパッキンがいかれているので、しっかり閉まりません。金具を扉につけて、何とか開かないようにしていますが、完全に閉じるわけではありません。それでもそこそこ冷えるのでアリは入ってきません。冷凍庫の方は霜がよくついてしまいましたが、我慢するしかありませんでした。

寝るためにはベッドが必要ということで、校長先生と首都のアピアに買いに行くことになりました。ピックアップトラックで家具屋に行き、選ぶように言われました。日本人だとダブルベッドはあまり購入しないかと思いますが、外国ではダブルベッドが基本です。そんなに高くなく丈夫そうなのを購入することにしました。ピックアップトラックの荷台に乗せて、学校まで運んできました。

料理は、これも別棟にある調理室で行います。トイレとシャワーはボランティアハウスを建てる時にニュージーランドのボランティアが使うために作った、シャワー棟にあります。これも歩いてすぐですので、行き来はそんなに大変ではないです。ただ、夜にトイレに行くのは大変です。真っ暗な中を歩いていく必要があるのと、シャワー棟には電気はひいてないので、真っ暗です。シャワーは暗くなる前に浴びればいいのですが、トイレはそうはいきません。

見沼区 齋藤

✿ おおみや教会通信はカトリック大宮教会のHP (<https://catholic-omiya.org>) でご覧になれます。

* ご意見や投稿(本などの感想、特集してほしいことなど)を募集しています。

FAX か郵送で受け付けています

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町2丁目350 FAX 048-641-2724

カトリック大宮教会 広報部宛

